授業事例１　薬を正しく使おう

【所 要 時 間】 約４０分

【授業の概要】 薬の正しい使い方を学ぶための一般的授業

【授業の特徴】 薬の正しい使い方全般について学べる授業

児童に伝えること

- 健康な毎日を過ごし、元気に学校に通うために必要なことを教える。
- 食事、運動、睡眠によって「自然治癒力」を養えることを教える。
- 病気にならないように予防することが第一で、薬はそれでも病気になってしまったときに使うものであることを伝える。
- 用法用量等、薬を服用する上での基本的なルール及びそのルールが定められている理由を教える。

この授業のねらい

- 自分自身の健康は、規則正しい生活によって守れることを知る。
- 薬のルールについて学び、用法用量等を守って正しく薬を服用してもらう。

	授業内容とポイント
導入	**1　どのような時に薬を服用するのか、薬の役割を学ぶ。** ○これまでどのような時に薬を服用していたかを確認する。 ○人間には自然治癒力が備わっており、病状や怪我の種類によって自然治癒力だけでは治らないときに薬を使うことを説明する。
展開	**2　薬に関するルールを学ぶ。** ○薬を服用するときに守らなければならないルールを知っているか確認する。 ○薬には用法用量というルールが定められていることを説明する。 ■用法 ・服用時間に関するルールを「用法」ということ。 ・「食前」、「食間」、「食後」はどのようなタイミングを指すのか、また、薬の種類によって吸収に適したタイミングが異なるため、用法は守らなければならないということ。 ■用量 ・服用量に関するルールを「用量」ということ。 ・大人と子供では代謝能力が異なるため、年齢によって服用可能な薬や１回量が決まっていること。

	・体に負担がかかるため、用量を守らずに沢山服用してはいけないということ。 **3　薬には「主作用」と「副作用」があることを説明する。** ・薬は「主作用」と「副作用」を併せ持っていること。 ・薬を使って体の具合がいつもと違うと感じたら、すぐに大人（家族、学校の先生、医師、薬剤師等）に相談すること。 大人に相談してもいいことなのだと、児童に認識してもらうことが大切です。 イラスト：帝京平成大学薬学部 青木真穂さん **4　薬はルールを確認してから服用するよう説明する。** ・医療用医薬品（医師から処方される医薬品）は、薬袋や情報提供文書を確認すること。 ・市販薬は、薬の箱や説明書を確認すること。 **5　友達に薬をあげてはいけないことを説明する。** ・薬にアレルギーを持っている人がいること。 ・同じ症状でも同じ病気とは限らないこと。 ・使用期限や用法用量がわからないこと。
まとめ	**6　授業内容のおさらいをする。** ・自身の治す力や守る力を養うために、食事・運動・睡眠が大切であること。 ・薬は用法用量等のルールを守って正しく使う必要があること。 ・人に薬をあげたり、もらったりしてはいけないこと。

ミナ先生の One Point Advice

★ 事前の練習が児童の興味に繋がる！？

講師が一方的に淡々と喋るだけの授業は、大人でも眠くなってしまうため、声に抑揚や緩急をつけて動きのある授業をすることが大事！
本番で原稿をそのまま読み上げてしまうと、声が単調化することに繋がるので、事前の練習がとても大切です。
時間が取れない場合は、直前に原稿を一読するだけでも違いますよ！

★ 自己紹介で雰囲気作り

自己紹介で自分の職業を伝え、「この職業を知っているか。」、「どんな仕事だと思うか。」等と尋ねることで、場を和ませたり、雰囲気を作るきっかけになります。
また、その職業を知り興味を持ってもらうことにも繋がります。